

キューバ: 停電と封鎖

ラ・ホルナダ紙 社説

2024年10月20日 08:14

キューバは、最大のエネルギー危機に見舞われており、キューバのほぼ全域で、1,100万人の住民のうち1,000万人が電力を奪われている。停電は以前から頻度と時間を増して発生していたが、17日木曜日に主要な熱電発電所が停止したため、電力システムが完全に破壊され、当局と技術者が電力供給の回復に取り組む間、学校授業の停止とほぼすべての経済活動の閉鎖を余儀なくされた。住民は、この事態が食料腐敗による飢饉の切迫につながるのではないかと懸念している。

危機の直接的な原因は、熱電発電所に電力を供給する燃料の不足にあり、天候の悪化で重油を積んだ船の到着が遅れたことである。しかし、究極的な原因は、キューバの大小すべての問題に共通するものと同じである。60年以上前に米国政府がキューバ国民を飢えさせ、当局に反旗を翻させるという、公言された目的で科した経済・通商・金融封鎖である。その邪悪な目的は挫折したものの、キューバが外貨獲得や必要物資の調達で直面する測りない困難は、確かに日常生活に必要なあらゆるものの深刻な不足を招いている。

封鎖論はしばしば単なる口実とみなされ、主権国家に向けられた、武器を用いない侵略の最も厚い網を構成する何十もの法律や政令の犯罪性は忘れられがちだ。カリブ海に浮かぶ島であるキューバの経済的天職は観光であり、アメリカからわずか144キロという立地は、アメリカ人を当然の基本的な市場にしている。しかし、アメリカ政府の違法な規則は、自国民のキューバへの観光渡航を禁じている。

しかし、この違法な制裁措置は超大国の住民に影響を及ぼすだけでなく、地球上のどこの国であれ、ハバナに玉ねぎであれ、抗がん剤であれ、子供の勉強用ノートであれ、何かを売買する企業は、世界の金融システムを独裁的に支配するアメリカによって迫害され、潰される可能性がある。ほとんどすべてのラテンアメリカ・カリブ海諸国にとって最も重要な収入源のひとつである、海外で

働く国民からの送金も、キューバにとっては閉鎖的だ。なぜなら、アメリカ帝国主義の多くの触手のひとつである国際決済システムへのアクセスが認められていないからだ。

ウーゴ・チャベスがボリバル革命の先頭に立ってベネズエラで民主的に政権を握って以来、ベネズエラは石油の出荷でキューバ国民に貴重な援助を提供してきた。しかし、アメリカ政府がベネズエラ国民をキューバ人に対する残虐行為と同じ犠牲者にしたため、ニコラス・マドゥーロ政権はキューバへの援助を削減せざるを得なくなり、極めて不安定な状況に追い込まれている。同様に、ハバナは、電気エネルギーインフラの劣化を回復させるための機械、工具、スペアパーツを購入することを妨げられている。キューバはまた、エネルギー転換に必要な技術へのアクセスも拒否されている。アメリカ政府の現職をはじめ、西側の指導者たちが演説で気候変動との戦いの原動力になると宣言しているにもかかわらず、である。

現世紀において、イスラエルがパレスチナの人々に対して行っていることを除けば、アメリカほど系統的かつ持続的に民間人に対して残酷な行為を行っている国はない。キューバ人に対する攻撃で、アメリカは人々の尊厳ある生活を送るためのあらゆる見通しを奪い、甚大な苦しみをもたらしている。これは、アメリカの政治階級が人々の幸福や自由について語りながら、その実、全く無視していることの証拠である。（了）

【翻訳チェック 新藤通弘】